

(5) 放出点近傍の拡散評価にはラグランジュの時間スケールの考慮が不可欠である。

謝 辞

本研究の推進に当たり、日本原子力研究所環境放射線物理研究室の方々に御協力を頂いた。また、日本気象協会の安達隆史博士に御助言を頂いた。関係諸氏に感謝の意を表します。

文 献

Davis, P. A., 1983: Markov chain simulations of vertical dispersion from elevated sources into the neutral planetary boundary layer, *Boundary-Layer Met.*, **26**, 355-376.

Diehl, S. R., D. T. Smith, and M. Sydor, 1982: Random-walk simulation of gradient-transfer applied to dispersion of stack emission from coal-fired

plants, *J. Appl. Met.*, **21**, 69-83.

大倉光志, 1990: 臨海地域における大気汚染の予測手法に関する研究, 博士論文, 九州大学工学部.

Pasquill, F., 1974: 'Atmospheric Diffusion', John Wiley and Sons, New York, 101-165.

竹内清秀, 近藤純正, 1981: 大気科学講座第1巻, 東京大学出版会, 30-32.

Thomson, D. J., 1984: Random walk modelling of diffusion in inhomogeneous turbulence, *Quart. J. R. Met. Soc.*, **110**, 1107-1120.

Yamada, T., 1983: Simulation of nocturnal drainage flows by a q^2 turbulence closure model, *J. Atmos. Sci.*, **40**, 91-106.

山澤弘実, 1990: 1次元気象モデルの開発 (PHYD1V3), JAERI-M (日本原子力研究所報告) 90-128.

_____, 1992: 筑波山周辺での拡散実験の解析とシミュレーション計算, *天気*, **39**, 605-613.

1993年度山本・正野論文賞候補者の推薦募集

日本気象学会の山本・正野論文賞は、(旧)山本賞(新人賞)の発展として平成2年度に発足し、平成5年度はその4回目に当たります。この賞は前2年間(1991年および1992年)に発表された気象学に関連する論文の中から、基礎研究・応用技術研究を問わず、新進(原則として35歳未満)の研究者・技術者による優秀な論文を選び顕彰するものです。論文公表の雑誌は国内・国外を問いません。

これまでの受賞者は、平成2年度: 向川均(気象大学校), 3年度: 佐藤薫(京都大学), 4年度: 田中博(筑波大学)の3名です。

つきましては、この趣旨に沿う候補者(論文)を選考するために、下記により広く会員からの推薦を募りますので御協力をお願い申し上げます。

記

1. 推薦期限

1993年4月10日(土)

2. 宛先

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内, 日本気象学会

山本・正野論文賞候補者推薦委員会

3. 推薦書記入事項 (B5版横書)

(a) 候補者所属氏名

(b) 当該論文題目・雑誌名・号数・頁数

(c) 推薦理由

(d) 推薦者所属氏名印

日本気象学会山本・正野論文賞候補者推薦委員会
 廣田勇(担当理事), 近藤純正, 高橋劭, 田中浩, 中島映至, 山岬正紀